

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870501511
法人名	(株) えひめメディコープ
事業所名	グループホームとらや
所在地	愛媛県新居浜市若水町2-7-4
自己評価作成日	H24年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「笑顔のある暮らし」の理念の下、いつも笑いの耐えない家庭作りを目指してスタッフ一同頑張っています。しかし、重症化に伴い、とらやのモットーである、全員参加の外出行事も年々難しくなってきました。ご家族様の協力も得て、なんとか現在実施できているのが現状です。今後も、出来る限り楽しい事は共有指定校と思っています。また、地域交流・活性化を目的にはじめた、地元の愛護との餅つき大会も今年で4回目を向かえています。小さい子供さんや保護者の方との交流があり、今後も継続していくつもりです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所は、介護相談員を受け入れている事業所として、県社協主催の「介護相談員研修会」に協力されており、管理者は、利用者の生活の様子や認知症についてお話をされた。さらに、「医師会」から依頼を受けて、管理者が介護教室の講師も務められ、NHKで放映された認知症に関する番組を取り上げながら、事業所での支援の様子を話された。市のケアマネジャー会時には、他事業所と交流して情報交換等もされている。

●利用者個々の「ふる里訪問」を行っておられたが、いつもと環境が変わることで混乱する利用者もみられたため、今年度から利用者やご家族の希望をお聞きして、お誕生日に「望み叶えツアー」に取り組まれている。職員は、ご家族と相談してツアーの計画を立てられ、ご本人が望まれている、「買い物・回転寿司で夕食・マインドピアで炊菜見学」ツアーを実行されて、利用者にたいへん喜ばれたようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームとらや

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

高次 真理

評価完了日

2012年 7月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) H17年スタッフ皆で立ち上げ、毎年確認を行っている。また、朝の申し送り時に復唱し、内容を毎日認識し、その日の業務につくようにしてしたが、最近では忘れがちである。	
			(外部評価) 「笑顔のある暮らし」の理念は、居間等に掲示され、利用者から、「ここ、居心地いいね」と言っていたりするような事業所を目指して取り組んでおられる。今回、自己評価に取り組み、管理者は改めて、「職員が理念を認識することの大切さ」を感じられ、休止していた朝の申し送り時の理念の復唱を再開しようと考えておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の役員会に役員(区長・組長)として参加し、組のお世話役をしていると同時に、行事へは出来る限り参加している。また、毎日の買い物等、顔見知りとなり、地域からの声かけもあり。	
			(外部評価) 地域住民の減少、又、高齢化ということもあり、事業所は、地域の一員として活動に積極的に協力されており、管理者は、区長、組長の他にも、ゴミ当番の役も引き受けておられる。管理者は、地域とのかかわりについて、「相互協力が大切」と考えておられ、「まずは、事業所から、できることをお手伝いして、そこでのかかわりから、事業所へもいろいろな形でかかわってくれたらいい」と、お話しておられた。地区の運動会では、利用者も玉入れや踊りに参加してお弁当もいただいた。花紙を丸めて、干支を描いた作品を公民館の文化祭に出品して、地域の方達にも観ていただいた。事業所で行う、年末の餅つき大会には、地区の愛護部より子ども6名、保護者4名が手伝いに来てくださり、一緒に餅つきをされた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 買い物先での声かけに対し、答えたり、運営推進会議において、話をしたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2回に1回、他施設訪問を行ったりし、皆で参考になるものはないか、また、地域での意見、包括からの市からの意見を参考にとらや運営を進めている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、地域の老人会の顧問、地域の役員、民生委員、元民生委員、家族代表2名、地域包括支援センターの方等が参加してくださっている。会議では、活動報告や事故・ヒヤリハット事例を報告されたり、地域での活動の報告もされている。又、会議を活かして、避難訓練や他事業所の見学会等も行っておられる。又、管理者が講師となって、医師会で介護教室を実施した際の内容をもとに、認知症の学習会も行われた。会議に参加されないご家族には、毎回、議事録を送付して会議内容を知らせておられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進委員として毎回包括より担当者に参加してもらったり、何かあれば、介護福祉課担当者に相談するようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、地域包括支援センターや市の担当者は、市の介護保険事業の動向について説明してくださっている。又、事業所は、介護相談員を受け入れている事業所として、県社協主催の「介護相談員研修会」に協力されており、管理者は、利用者の生活の様子や認知症についてお話をされた。さらに、「医師会」から依頼を受けて、管理者が介護教室の講師も務められ、NHKで放映された認知症に関する番組を取り上げながら、事業所での支援の様子を話された。市のケアマネジャー会時には、他事業所と交流して情報交換等もされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 毎年研修会に参加したり、学習会をしたりして再認識し、日ごろの介護につなげている。ただ、重症化に伴い、早期に対応が出来るように、各センサー(ポータブルや固定センサー、マット等)での音の拘束や、不穏な入居者に日中車椅子に座ってもらったりしているの、今後検討したい。	
			(外部評価) 玄関から居間まで長い廊下でつながっているため、居間から玄関の様子がわかりにくいこともあり、玄関にはセンサーやモニターを取り付けている。又、居室のベッドは、利用者によって、転倒等の防止のためにセンサーマットを設置されていたり、2階居室には、夜間や昼寝の際にはポータブルのセンサーを置いて、利用者の動きに対応されている。調査訪問時にもセンサー音が何度も聞こえていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎年研修会に参加したり、施設内学習会をしたりして再認識をし、日頃の介護に繋げている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会があれば参加するようにし、対象入居者様がいれば家族等話し合いを持つようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時、契約変更時等は家族と十分説明を行い、契約を結ぶようにしている。(やや遅れがちになっている)	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を置き、また、年2回家族会を持ち、意見・要望を聞くようにしている。また、年1回医療生協アンケートでも家族等の意見が反映され、スタッフ部会や、家族会で検討がなされている。 (外部評価) 以前は行事と合わせて家族会を行っておられたが、ご家族も高齢化し、長時間の滞在が難しくなられて、「家族会と行事は別にしてもらいたい」との意見があり、現在は、別々の日に開催されている。家族会時には、行事や日常生活の様子・事故・ヒヤリハット事例について報告して、ご家族から事業所の取り組みや支援について要望等を聞き取っておられる。玄関のモニターは、ご家族からの要望や費用の協力もあり、取り付けられている。運営推進会議に参加していただく家族代表者は、家族会にて2名の方を選出していただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日での気づきは、気づきノートに記入してもらうようにし、月1回部会において、業務内容を検討するようにしている。また、年2回個人個人において面接を行い、意見要望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 利用者の高齢化に伴い、これまでの職員のシフトでは朝・夕どきに十分なケアが行えないため、職員からの提案を参考にして、朝夕の時間帯を手厚くできるようシフトを変更された。タイル張りの洗面所には棚がなく、職員が材料等を買って来られ、利用者の使いやすい棚を作られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 取締役会に、前月の経営、運営状況を提出し、月1回取締役会に参加し、意見を出し合い、職場作りに勤めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 面接により、各人が研修に参加しやすい方法を見極め、その人にあった研修を進めるようにしている。また、会社として、研修参加費や交通費の助成が認められている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県のGH協会に加盟し、研修会に参加することにより交流を図ったり、相互評価には必ず、複数参加するように勤めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、本人・家族と面談を行い、アセスメントシートを仕上げると同時に、本人の気持ちを理解するように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、本人・家族と面談を行い、アセスメントシートを仕上げると同時に、家族の気持ちを理解するように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居された時点では、介護計画を小まめに更新し、その時々にあった介護が出来るように心がけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の掃除、洗濯物干し、たたみ、買い物等ともに協力できるように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 診察は出来るだけ家族にしてもらったり、イベントなどには出来る方には出来る限り来ていただいて面会を多く持つようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 今年度より、入居者様の誕生月に、担当者がご人・ご家族と相談をし、ご本人が今一番望んでいる場所へ、一緒に出かけ、1日過ごす「望み叶えツアー」を実施している。 (外部評価) 利用者個々の「ふる里訪問」を行っておられたが、いつもと環境が変わることで混乱する利用者もみられたため、今年度から利用者やご家族の希望をお聞きして、お誕生月に「望み叶えツアー」に取り組まれている。職員は、ご家族と相談してツアーの計画を立てられ、ご本人が望まれている、「買い物・回転寿司で夕食・マインドピアで芍薬見学」ツアーを実行されて、利用者にたいへん喜ばれたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 絶えず一人ひとりに気をつけながら、声かけし、よい関係づくりが持てるように援助している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了家族に対して、(機関紙や)年賀状等を送るようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 3ヶ月に1回はアセスメントシートをスタッフ皆で出し合い、介護計画に生かしている。また、月1回のカンファレンスで出来る限り、本人のペースに合わせるように勤めている。(起床・就寝時間・食事時間等) (外部評価) センター方式の様式を用いてアセスメントされている。入居時ご家族にお聞きしたい情報は、記入しやすいように事業所独自で様式を作っておられ、利用者の写真を入れたり、吹き出しで記入欄を設け、「入居前の生活や口癖」、「得意なこと、やりたいこと」等の記入をお願いされている。	日々の記録には、利用者別の担当者が利用者の普段の会話の内容や出来事等を記入し、思いや意向を知る努力をされているが、さらに今後は、それらの情報をすべての職員にわかりやすく、「本人の思いを書くシート」にまとめて、介護計画に反映しやすいように取り組んでいくことを計画されていた。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時アセスメントシートを家族と共に埋め、活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎月のカンファレンスにて、それぞれの入居者様の様子を把握し、介護の統一を図るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月のケアカンファにて、それぞれの入居者様の様子を把握し、利用者様にあったケアができていないか等介護の統一を図るようにしている。また、毎月精神科カンファレンスにより、主治医と最近の状況等検討が出来る様にしている。</p> <p>(外部評価) 3名の介護計画作成担当者が、利用者個々の担当者と話し合いながら、分担して介護計画を作成しておられる。計画は、月に1度、職員会時にモニタリングを行っておられ、利用者の現状に応じて、3～6ヶ月で見直すようになっている。今後、計画見直し時に、ご家族にも参加いただく等して、さらにご家族のケアへの要望を計画に反映していきたいと考えておられた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録に、ケアプランを記入し、その日その日のケアがどの目標に基づいて行われているか、それぞれのスタッフが記入し、担当者が月1回モニタリングするようにした。まだ初めて間がないため、これから学習もしながら、全体に定着させていく方向である。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 出来る限りは本人、家族の希望を取り入れるようには努力している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域にあるスーパーへ、ほぼ毎日外出している。また、参加できる地域行事へも参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 契約のときに、かかりつけ医を聞き、何かあればできるだけかかりつけ医での対応に心がけている。	
			(外部評価) 定期受診は、ご家族が付き添っておられ、事業所では、ご家族に「日常生活の現状報告書」をお渡しして、医師にご本人の健康状態を正しく伝えられるように取り組まれている。それぞれのかかりつけ医は往診にも来てくれるようになっており、調査訪問時、体調の優れない利用者に往診に来てくださるようになっていた。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 一般状態に係らず、皮膚の状態等少しでも変化があれば、看護師に情報を集中するようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 必ず病棟との連携にて病状把握に務め、利用者様が、安心して治療ができ、早期の退院が出来る様に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルについては、契約時に家族・本人への説明を行っているが、状況に応じてその都度相談を行っている。	
			(外部評価) 家族会時、看取りについての話題が出た際には、1名のご家族から「自宅での看取り」の希望も聞かれた。その他のご家族のほとんどが事業所での看取りを希望されているようだ。これまで事業所で看取りを支援した事例はないが、実際に利用者が終末期を迎えた時には、管理者は、「家族にも協力を得ながら、事業所として最善の支援をしていきたい」と話しておられた。今後、管理者は、看取り支援の体制作りについて、「運営推進会議や職員会で議題に取り上げたり、職員研修をすすめていきたい」と考えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回の学習により振り返りはしているが、身についたとはいえない。必ず、管理者(看護師)に連絡をし、支持を仰ぎ、隣接の病院と連携をもって実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的(年3回)な避難訓練(に運営推進会議のメンバーも参加し、実施しているが、すべて身についたとはいえない。毎日の朝礼においてその日のメンバーの災害時における行動責任を復唱するようにしている。 (外部評価) 消防署の協力のもと、日中・夜間の火災を想定して避難訓練を行っておられる。又、緊急通報装置の作動訓練も実施された。いざという時のために、早出、遅出等で役割分担を決めておられ、毎朝、職員は、自分の役割を把握できるよう復唱されている。他事業所の見学時、備蓄を見せていただいたことがきっかけとなり、事業所でも2~3日分の水や食料品を備えられた。現在、地域の避難訓練は実施しておられないようだが、管理者が参加している「新居浜市防火管理協会」の会合時に、提案したいと考えておられた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人の人格を尊重しながら声かけをしているが、本人とのなじみの関係での声かけとなっていることもあり。 (外部評価) 利用者が「できない」と言われるような時、職員は、「大丈夫ですよ。ゆっくりやりましょう」と声をかける等して、利用者の持っている力を使って生活できるような支援に努めておられる。職員と利用者の関係性によっては、「じいちゃん」「しーちゃん」等、馴染みの呼び方の方が反応が良かったり、喜ばれることから、そのような呼び方をする場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活における色々な事は必ず本人さんに聞くように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>(自己評価)</p> <p>出来るだけ、本人の過ごしやすいような流れで対応しているが、こちらの時間の流れになっているようにも思われる。</p>	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>外出時には、本人と一緒に洋服を選んだり、顔剃りしたり、カットやパーマをかけたい希望があれば、家族とも相談をし、お出かけするようにしている。</p>	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>(自己評価)</p> <p>その方の能力に応じた方法で一緒に調理できることは手伝ってもらっている。また、調理を工夫し、おいしく、楽しく食べてもらえるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>食事の会話等から利用者の好みを探り、献立を立てておられ、利用者と一緒に近くのスーパーに出かけて、その日の夕食～翌日の昼食までの食材を買って来られ、又、事業所の菜園で採れた野菜等も使って、職員が食事を作っておられる。調査訪問時、利用者は、もやしの根取り等の下ごしらえをされたり、食後、職員が下膳しやすいように食器を重ねておられた。月・木曜日は、利用者職員でレクリエーションを楽しむ日と決めておられ、昼食のみ配食となっている。調査訪問時の昼食は、庭で採れたカボチャとトマトを使って、カレーライスとサラダを作っておられた。職員が、「これは庭で採れたカボチャよ」と利用者に伝えると、利用者は「カボチャおいしい」と感想を言われていた。食事の際には、一人ひとりに除菌用の手ふきシートが用意されており、テーブルには、広告で作ったゴミ箱を置いておられた。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>1日の水分量や、食事の摂取量を、チェック表に記入するようにし、必要な水分、栄養が取れているか把握に努め、摂取していただけるように努力している。</p>	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<p>(自己評価)</p> <p>毎食後とは行かないが、体制の取れる昼は必ず一人ひとり口腔ケアができるようスタッフがつき、はじめは自分で、できないところをスタッフが補うように援助している。(口腔ケアチェック表に毎日チェックしている)</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>その人の生活リズムやシグナルを察知し、誘導を行い、また、トイレに入ったときを見計らってパット交換や、上げ下ろしの介助をしたり、できるだけ自分でトイレ排泄ができるような援助を心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>排泄・水分摂取の記録から考察して、支援内容を決めておられ、便秘ぎみの方には牛乳を飲んでいただいたり、下剤を飲むタイミングを図って支援されている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>排便チェック表で排便をチェックし、その人の体調に合わせた食事、捕食、担当医と相談し、定期的な下剤により排便をコントロールしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴チェック表を元に、毎日必要な方から声をかけ、入浴してもらっている。時間帯は体制上午後からのみとなっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>夏期は浴室、更衣室ともかなり暑くなるため、職員のアイディアで窓にすだれを取り付け、窓を開け放ち外からの風を採り入れながら入浴できるようにされていた。「浴室に行くことや衣服の着脱をめんどろがる方」には、職員が「私も入りたいので、一緒に行きましょう」等、声かけを工夫され入浴につなげておられる。それぞれに脱衣かごを用意され、着替え等を準備されていた。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>その人の体調、生活習慣を把握し、その人にあった休息を援助している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人のカルテに薬剤情報を閉じつけ、いつでも誰が見てもわかるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) アセスメントシートをもとに、本人の得意な事、好きな事を伸ばせるように、また楽しめるように皆で智慧を出し合い援助している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望を聞きながら、月1回は出来るだけ外出やイベント行事を計画している。ボランティア、家族の協力を得ながら、年1回、砥部の動物園や東予国民休暇村へ日帰り旅行に行っている。	
			(外部評価) スーパーに買い物に行く際には、地域の方と出会うこともよくあり、あいさつを交わしたり、地域の方は利用者の体調等を気にかけて、気遣う言葉をかけてくださる。毎月計画を立てて外出する機会を作っておられ、春には河川敷で花見をしながらご家族と一緒に食事されたり、つつじ、菖蒲、芍薬を見にドライブにも出かけておられる。混み合う時間帯を避けるためにも、先に外食してから、少し時間をずらしてお花を見に行く等、取り組みに工夫されている。冬には、小松の椿湯で足湯を楽しまれたり、年初めの初詣に出かけた際には、食事をして帰られた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) こずかいには、施設預かりと、ある程度理解できる人、希望の人には本人持ちこずかいを持たしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は子機を使用し、いつでも対応できるようにしている。手紙、はがきも本人希望があれば援助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家庭の食堂、のような雰囲気を出すように、テレビ以外に心地よい音楽や、その日の気分によって演歌やクラシックを流すようにしている。各空間の壁には、季節の花等を飾るように心がけている。</p> <p>(外部評価) 「とらや旅館(築60年)」の建物を改修して造った事業所であり、しつらえ等、趣きのある雰囲気、調度品やソファ等、以前のものをそのまま使用しているものもある。建物全体が中庭を囲む形となっており、一角のデッキスペースにはソファが置かれていて、利用者や来客が座ってお話等をされている。調査訪問時には、利用者お二人が洗濯物を取り入れ、ソファに座って畳んでおられた。デッキから見える裏庭にはラベンダーや朝顔等、いろいろな種類の花を植えておられ、菜園にはトマト、なすび、かぼちゃ等の野菜が実っていた。2階の居室への階段は、旅館時代の急な階段をゆるやかにリフォームされていて、左右に手すりを付け、利用者は両方の手すりを持って上がり降りされている。廊下の脇には和紙のシェードの趣あるライトが置かれていて、夜間、足元を照らしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ウッドデッキに使い古したソファを置き、好きなときに座れるようにしている。また、一緒に洗濯物を干したりたたんだりしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 出来る限り、本人の使い慣れたものを持ってきてもらうようにしている。</p> <p>(外部評価) 旅館を改修した事業所で、居室は全室畳の間になっている。1階に6室、2階に3室あり、入り口の木製の表札には、フルネームで利用者個々に名前が書かれていた。ベッドを置いている方が多いが、希望によって布団を敷いて休む方もいる。ご家族がよく来られる方は、一緒にコーヒーを飲めるように、水筒にお湯を入れて置いておられる。ご家族の写真を飾っている方やラジカセでお好きな歌手の歌を聞き楽しめる方もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) できるだけ、状況に応じ、見守りにて安全を確保しながら、行動をしてもらっている。また、必要に応じ、手すりを設置している。</p>	